

地震調査研究推進本部政策委員会
第11回成果を社会に活かす部会議事要旨(案)

1. 日時 平成14年12月5日(木) 10時~12時

2. 場所 文部科学省別館11階 大会議室

3. 議題

- (1) 長期評価の确实度(信頼度)について
- (2) 地震動予測地図の防災対策等への活用について
- (3) その他

4. 配布資料

資料 成11 - (1) 地震調査研究推進本部政策委員会
第10回成果を社会に活かす部会議事要旨(案)

資料 成11 - (2) 地震調査委員会における長期評価の确实度(信頼度)
に関する検討状況について

資料 成11 - (3) 地震動予測地図の防災対策等への活用に関するこれまでの
議論の概要

資料 成11 - (4) 日本における被害地震の発生頻度に関する統計的分析に
ついて

資料 成11 - (5) 地震調査研究推進本部における調査観測の推進の考え方

資料 成11 - (6) 社会が苦手なこと (鳥井委員)

資料 成11 - (7) 調査・研究の成果を誰にどう伝えるか = 「納得」される
地震情報を目指して(中川時事通信社web編集部次長)

資料 成11 - (8) 地震に関するセミナーについて

参考 成11 - (1) 今まで公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一
覧

5. 出席者

部会長	廣井 脩	東京大学社会情報研究所長
委員	阿部 勝征	東京大学地震研究所教授
	入倉 孝次郎	京都大学防災研究所長
	小出 治	東京大学大学院工学系研究科教授
	佐野 真理子	主婦連合会事務局次長
	重川 希志依	富士常葉大学環境防災学部助教授
	島崎 邦彦	東京大学地震研究所教授
	下田 隆二	東京工業大学フロンティア創造共同研究センター教授
	鈴木 康弘	愛知県立大学情報科学部助教
	大門 文男	損害保険料率算出機構火災・地震保険部長
	高梨 成子	(株)防災&情報研究所代表
	鳥井 弘之	日本経済新聞社論説委員

	布村 明彦	内閣府参事官（地震・火山対策担当）
外部有識者	中川 和之	時事通信社 web 編集部次長
事務局	磯谷 桂介	文部科学省研究開発局地震調査研究課長
	中川 勝登	文部科学省研究開発局地震調査研究課 地震調査研究企画官
	前田 憲二	文部科学省研究開発局地震調査研究課地震調査管理官
	吉田 秀保	文部科学省研究開発局地震調査研究課地震火山専門官
	前田 豊	文部科学省研究開発局地震調査研究課課長補佐
	青木 重樹	文部科学省研究開発局地震調査研究課地震調査官
	梅田 裕介	文部科学省研究開発局地震調査研究課

6. 議事

- (1) 前回議事要旨が了承された。
- (2) 事務局から、資料 成 11 - (3) に基づき、前回会合における長期評価の信頼度に関する議論の概要について、説明がなされた。
- (3) 地震調査委員会長期評価部会の島崎部会長及び地震調査委員会事務局から、長期評価部会における長期評価の確実度（信頼度）に関する検討状況について、資料 成 11 - (2) に基づき、説明がなされ、議論が行われた。今後、本部会での議論の結果を踏まえて、地震調査委員会ですらに検討を行っていただくこととした。
- (4) 事務局から、資料 成 11 - (3) に基づき、地震動予測地図の防災対策等への活用に関するこれまでの議論の概要について説明がなされた。
- (5) 地震調査委員会事務局から、資料 成 11 - (4) に基づき、前回の部会で話題になった日本における被害地震の発生頻度に関する統計的分析について説明がなされた。
- (6) 事務局から、議論の参考として、資料 成 11 - (5) に基づき、地震調査研究推進本部の調査観測の考え方について説明がなされた。
- (7) 鳥井委員から、資料 成 11 - (6) に基づき、マスコミ関係の立場として、社会における不確実性、確率、リスク等のとらわれ方について説明がなされた。
- (8) 時事通信社中川 web 編集部次長から、資料 成 11 - (7) に基づき、調査・研究の伝え方について、いくつかの具体例を交えて説明がなされた。
- (9) 事務局の説明や委員等の提案を踏まえて、議論が行われた。